

○1番（上田雄一君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより1番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

月日がたつのも早いもので、1期4年の任期中最後の一般質問となりました。これまで16回の定例議会、新人だからこそ経験を積まなければ自分自身、成長もないと考え、4年前、ポスター等でもいろいろ記載させていただきましたけど、やるという言葉で、何としてでもやらんといかんと、その思いだけでこの4年間、突っ走ってきたような気がしております。普通はなれるもんですけど、今でも緊張しております。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、早速質問に入らせていただきます。

今回通告させていただきました、この全質問で取り上げさせていただきましたスポーツ振興について、そして、私がこの場に来る——この世界に入ると言ったほうがいいんでしょうか、きっかけとなりました教育について、そして最後に、これはさまざまなジャンルが幅広くいきますので、まちづくりについてと通告しております。以上3項目であります。

それではまず、スポーツ振興についてであります。

武雄市には、顕著な活躍あるいは貢献をした市民に対して、武雄市名誉市民や市民栄誉賞など創設されているのは周知のとおりだと思います。記憶に新しいところだと、市制創立50周年時は日本航空初代専務の松尾氏、前兵庫県知事の貝原氏、戦場カメラマンの一ノ瀬泰造氏が受けられております。合併後の直近では、重要無形文化財、俗に言う人間国宝の認定を受けられました中島宏さんがいらっしゃいます。

武雄市名誉市民条例や施行規則、また武雄市表彰条例など、条例的にもさまざまありますがけれども、よくよく見てみますと、市長が諮問して名誉市民選考委員会が答申する仕組みになっているかと思えます。これはどのような基準で行われているのか、条例等も見まして、名誉市民と、そして市民栄誉賞の違い、この辺もあわせて御答弁いただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。まず、制度的なものについて御説明いたしたいと思えます。

まず、名誉市民でございますけれども、これは条例にもございますが、公共の福祉の増進、市勢振興、文化の振興に偉大な貢献をなし、その功績が顕著である本市の市民、または本市と縁故の深い者を表彰する制度でございます。これも条例に基づいております。この名誉市民につきましては、称号を贈るというものでございます。

また、市民栄誉賞につきましては、広く市民に郷土の誇りとして敬愛され、感動を与えるような輝かしい活躍をし、市民に希望と夢を与えるような顕著な功績があった者を表彰する制度ということで、これも条例に基づくものでございまして、功績を表彰するというもので

ございます。ただ、10年以上とか、そういった年数的な基準というものは、これにはございません。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

名誉市民ですね、先ほどの答弁からいくと、人間性自体とか総評して称号を贈られると。市民栄誉賞のほうは、顕著な功績とか、そういう実績等で表彰されるということですね。

それでは、現在そういった候補者といいますか、検討されている方、そういった方はいらっしゃるのでしょうか、御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

名誉市民、市民栄誉賞につきましても、現在のところ候補者の該当というようなことはございません。あと、市の表彰というのがございますけれども、これにつきましては平成22年度表彰候補者の調べを本年8月ごろに実施する予定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

今のところ、検討されているというか、いらっしゃらないと。ここで、ちょっと私が思ったのが、スポーツ振興で上げているので、スポーツ界と思うんですけど、武雄市北方町が生んだスーパースター福地寿樹選手ですね。彼は、1993年にドラフト4位で広島東洋カーブに入団され、2006年西部ライオンズ、2007年シーズン終了後に東京ヤクルトスワローズに移籍され、2008年のシーズンでは打率3割2分、9本塁打、155安打、61打点と自己最高の成績を残されております。何よりこの年、42盗塁を決めて、セントラルリーグ盗塁王という初のタイトルも受賞されているんですよね。もちろん皆さん御存じだと思いますけど、野球の道を志すたくさん子どもたちから大人まで、野球の人口というのもたくさんいると思うんですけど、その中でもプロ野球選手になるのは一握りですよ、もう本当ごく一握り。その中でまた、タイトルを取るというのは、私は1回取っただけでも、十分その称号に値するんじゃないかなと思うんですけど、その上で迎えた昨シーズンですね、自己通算200盗塁も達成されて、2年連続のセリーグ盗塁王を獲得されているんですよ。

その福地選手ですけど、もう合併前から北方小球友会、北方中学校、そういったところで青少年の指導もずっと尽力されておって、合併後は必ず帰省されて、市内の小・中学生相手に必ず野球教室を開催してくれて、子どもたちには自腹で、いろいろ自分が使ったことのある

るようなグッズとか、新品のグッズとか、ことしも行いました——行いましたというか、私も幹事の一人でもあるので、野球教室等をやったんですけど、ことしもまたいっぱいですね、子どもたちが喜ぶようなものを持って帰ってきてくれて実施していただいているんですよね。この北方出身スーパースターの福地寿樹選手はこの対象にならないのかどうなのか、御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、市長個人の見解として御答弁、統括代表権がある市長じゃなくて、個人として答弁をしたいんですけども、当然のこととなり得ると思います。その上で、これを決めるのは、先ほど部長から答弁がありましたように選考委員会でございますので、これは答申するのは私でございますので、一たん調査、整理をした上で私から選考委員会に諮問したいと、このように思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当に厳しいプロの世界で頑張っておられるので、何とか武雄市全体が福地選手を応援するという環境をつくっていききたいなと思っています。ぜひよろしくをお願いします。

続いて、スポーツ振興の中で競輪事業について入りたいと思います。

近年、競輪に限らず、競馬、また競艇、オートレースといった、いわゆる公営ギャンブルというんですか、売り上げ低迷が目立っているようでありまして、武雄競輪においても、これはもう例外ではないことであります。

こういった厳しい状況の中で競輪事業を考えるに当たって、これはもう毎度毎度こちらで申し上げておりますけど、やはり本場の売り上げアップというのが必要不可欠じゃないかと。本場に元気がなければ絶対だめと私は思っておりまして、売り上げ低迷の起爆剤としては、特別競輪、また記念競輪を誘致するのが一番いいんでしょうけど、この不況下で、どこもやっぱり売り上げ低迷には苦慮されており、特別競輪なり、記念競輪なりというのはもうどんどんどんどん招致したい、誘致したいというのがある中で、やっぱり簡単にいくわけじゃないんですよね。起爆剤としても、それはもうぜひ頑張っていたきたいなという中で、それとは別に、何とかして本場のお客さんの、売り上げを上げるためには客単価か、もしくは客数を上げないといけないというところで、実際、武雄競輪場として考えられること、どのようなことをやっておられるのか、競輪事業売り上げアップのためにどのような施策を打たれているか、御紹介願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

実は、昨日の午後、明るい知らせがありました。平成23年度の特別競輪の開催の申請を以前からしておりましたけれども、競争が非常に厳しい中で武雄競輪におきまして、来年の4月に共同通信社杯の特別競輪の開催が決定をいたしました。これは身内の話になりますけれども、林競輪事業所長を含めとして、職員の皆さんたちの頑張りで誘致ができたと思っております。事業所の職員に私からも感謝をしております。そして何よりも、競輪選手会の九州本部長であられる佐々木昭彦支部長さん、佐賀支部長の支援もありました。この場をかりて御礼を申し上げます。来年の特別競輪の開催に向け、事業所職員とともに売り上げアップに努めてまいりたいと思います。

この関係で、ちょっと1つ紹介したいことがあります。（パネルを示す）週刊文春のことしの1月21日号であります。下重暁子さん、以前NHKの、世界をまたにかけて行かれた方が、今JKAの会長をされている方のコラムが載っております。ちょっと見にくいかもしれませんが、武雄の競輪場がかなり大きく載っています。その中で、私がちょっとびっくりしたのは、下重さんがお越しいただいたときに、競輪場の入り口で出迎えてくれたのは、地元小学5年生が全員で競輪場を訪れた際に描いた絵であるといったこととか、あと、選手の方々が市民の方々と親しんでおられる。そして、先ほど御紹介した地元選手会支部長の佐々木昭彦さんのお嬢さんは競輪場で結婚式を挙げられたということで、これに際してクオカードにして1枚いただいたと書いてあります。

ここで、優しいお湯のあふれる温泉地武雄、がばいばあちゃんたちも健在だと。嵐山さんというのは、作家の嵐山光三郎のことです。確かに嵐山さんの推奨どおり、推奨されておりましたので、武雄はがばい競輪場であったということで、ここに実際の絵であるとか、子どもたちが実際見学しているところであるとか、これは市民の方々が一丸となって今度の共同通信杯の誘致になったということ。

そして、これは以前の話でありますけれども、牟田副議長と私が右代表して下重さんをお迎えして、夜、懇談の場がありました——下重さん、会長さんと、もう1つJKAの職員さんと。そのときに下重さんがおっしゃったことは、頻繁に職員の林さんの名前が出てくるんですね。「林さんのエネルギーというか、活躍はすごいよ」ということをおっしゃっていただいて、本当にうれしく思いました。

繰り返しになりますが、そういったなかなか目に見えにくい、地味ではありますが、そういう積み重ねが、この厳しい中で共同通信社杯を誘致すること、特別競輪を誘致することができたと思っておりますので、今度はこれを受けて市民一丸となって、まだ1年近くあります、来年の4月でありますので。盛り上げてまいりたいと、このように思っ

おります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

それはそれは、来年の4月、共同通信社杯特別競輪誘致、本当に職員の皆さんの頑張りのおかげだと思っています。本当に明るい材料ですね。すみません、私もあんまり詳しくはないんですけど、共同通信社杯はたいちゃ売るっばいとこの辺も言いよんさあけんですよ。武雄にとっても本当に明るい材料かなと思っています。その起爆剤は起爆剤として、もう本当にうれしいニュースだと思います。

それと別に、あとそれ以外の期間——期間というか、空白というわけにはいきませんね。ふだん、常日ごろどのように売り上げアップを目指して施策を打たれているかというところでは。

先ほど答弁ありましたように、小学5年生の絵でお出迎えしてというところで、下のほうにも写真が載ってまして、私もちょっと、けさこれもいただいたところですけど、記事と関連しての写真になるのであれですけど、これは佐世保の井上選手がオリンピックで取った銀メダルを無造作にポケットから取り出して子どもたちに触らせてくれたと。子どもたちが触っている写真も載っているわけですね。これこそ、トップアスリートのあかしを生かした教育というか、子どもたちの夢につながるものじゃないかなと思って、この写真を見て私もちょっとびっくりしているところです。オリンピックのメダルなんか、私も見たことないですし、もちろん触ったこともないですから。こういうことは、井上選手のいきな計らい、また佐々木支部長の人脈というか、そのおかげだと私は感じているところです。

きょう、私も1つ何か提案をせんといかんなど思いながらおったところですから、御紹介させていただくんですけど、先日、スポーツ新聞とか、ちょっといろいろ見よったところで、何か提案がなかかなと思ってずっと見よったら、高校対抗戦というふうなことがあったわけですよ。もちろん、これは大村競艇の記事やったとですけど、高校対抗戦となっとなっとな、高校生に券ば買わすっとななど思いよったら、よくよく読んでみると違って、各選手を高校別にずっと色分けしたような感じであっせんされて、最終的にどの高校が優勝するかという企画のレースやったとですよ。ファンから見ると、あんまりそんな、どこまで効果のあつとなかかななど思いよったとですけど、でも、よくよく自分のことに考えてみると、やっぱり自分の出身の中学校、武雄中学校とか武雄青陵高校の卒業生の選手が集団になってレースに出るってなあぎ、やっぱりみんな応援していくと思うとですよ。私ももちろん応援すると思うし。だから、そういうファンの心理をくすぐった企画じゃなかったのかなと。

それにいただいたアイデアというか、御提案なんですけれども、そういうのを、ちょっと

言うとはファン側でできんかなと。ファン側という、例えばいろんな団体とか、そういう人たちから代表で何名か出てきてくださいというような感じで来てもらって、それで、例えばの中率を競うような大会とかですね。要は、さっきの紹介にもありましたように、銀メダリストの井上選手とか、メダルのこともあってですね、やっぱりトップアスリートと思うとです。そういうスポーツの感覚で、クリーンなイメージで、従来、小売店で結構、今いろいろ話を聞いている中で、ちょっと来てでも何でんよかけん買うてくださいというお店よりも、買わんでよかけんが、とにかく遊びに来てくださいという雰囲気のお店のほうが生き残っていつているような感じがするんですよ。だから、武雄競輪もそういうふうに、来てちょっとでもよかけん買うてくださいじゃなくて、とにかく遊びに一回来てくださいと。パブリックビューイングでも、そがんやったと思うとです。今レゲエのイベントをされているとき物すごく集まると。やっぱりそういうところで、ちょっとでもよかけん遊びに来てくださいという感覚が必要になってくるんじゃないかなと。

これをやるとすれば、武雄市ブログの中でもあります競輪専用ブログじゃなかかなと私は思うととですけど、「44. ぼんこつスポーツマン」さんですかね、あのブログも結構読者がおんさつとですよ、いっぱいね。私もちょくちょく見ようと思んですけど、そういうブログなんかにも協力してもらって、武雄市のホームページももちろんですけど、そういうふうにして、武雄競輪場にまず遊びに来てと、車券を買わんでよかけん遊びに来てというような施策が打てないものか。そういう必要性はどう考えるか、御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常にいいお考えだと思います。まず、遊びに気軽に来てということで、心理的なハードルを下げるとのこと、そして、今、距離的なハードルというのはあんまりないんですね。1,800人を集めた4年前のパブリックビューイングでも、結構遠くから、熊本とか、あちこちから来とんさつたけん、そういう意味での距離的なハードルはあんまりありませんので、そういう意味で心理的なハードルを下げた上で遊びに来ると。できれば、親子で遊びに来れるようなことを考える必要があるのかなと。また、議員のアドバイスを賜ればありがたいというふうに思っています。

先ほどの出身高校生の話は、なるほどそうだなと思って拝聴いたしました。ちょっと私たちも考えてみたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

その大会とかも、例えば武雄カップとか、名前は何でんよかとですけど、そういうイベン

トで、ぼんこつスポーツマンさんに、例えば第1回大会の優勝は何とか企業さんの何とかさんというような感じで、それをずっと続けていくことによって、「名前載ったのう」という話になれば、「ふだんは行かんとぼってん」とか、本当は行きんさあかもわからんし、行きんさらんかもわからんし、そこら辺はわからんですけど、その企画に出たらたまたま優勝したもんねと。そういう感じでも持っていくべきだと思いますし、競輪の販促の予算なんかも、そういった大会の優勝賞品にも回すとか、そういう取り組みというのも私は十分あるんじゃないかなと。とにかく遊び心ですね。

ハード面でもう1つ気になるところは、販促整備の状況ですね。看板とか、いろいろ前回の議会、これも先輩議員から質問等いろいろ出ておりましたけど、武雄競輪場の前の道なりを通っているときでも、なかなか競輪場がぱっと目に入るところにはないもんですから、やはり不利な立地条件にはあるんじゃないかなという気がしております。ぜひちょっと考えていただきたいのが、どこか道路沿いにオーロラビジョンというか、今、結構開催があっているかどうかという確認をするのは、そこを通ったときに、車の多かけんが、きょうはありようねとか、のぼりが立っとるけん、きょうありよるとかというような感じの、そういうアイキャッチしか、予算上もなかなかそのくらい——そのくらいと言ったらおかしかな、予算上でそういうふうな施策しか打てないというような状況があるんじゃないかなと。ぱっと見て、きょうはありよるねとかというような感じで、もっとファンを呼び込むような施策が打てないものか、ぜひそこら辺について御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

御指摘の画像の設置でございますけれども、開催の日程について、おとといですか、質問があっただけのように、市内、それから市外、県外の開催日程の看板については、ほぼ撤去しております。ということは、今現在の開催の日程というのは、もうとにかく毎日あつとるわけですね。それで、その日程看板を見てこられる客というのは、ほとんどいないんじゃないかということで、そのほかに、例えばパソコンとか、あるいはうちのホームページとか、そういうのを見てお客さんは来ていらっしゃるということで、ただ、開催中については、ゆめタウンの横の道路にはのぼり旗ですか、そういうのでPRはしております。そういうことで、先ほどの件については費用面もございますので、そこら辺を勘案して今後検討はしてみたいというふうに考えます。

それから、先ほど本場にとにかく客を呼びたいということで、これは宣伝でございますが、4月17日から60周年の記念競輪でございますので、そこではいろんなイベントがございます。子ども向けのイベントがございますので、17日から4日間、本場のほうにぜひおいでいただきたいということでお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そういうモニター、オーロラビジョン的なことをやると、どうしてもファン心理をくすぐるところにはなってくるのかなという個人的な考えもありまして、ちょっと提案をさせていただきました。

私は、競輪はプロスポーツだと思っておりますけど、どうしてもギャンブルの要素もあるわけで、嫌いな人というのも絶対いらっしゃると思うんですよ。しかし、これまでも一般会計への繰り出し等もされている武雄競輪、また看板商財でもあります。ですから、とにかく来てもらって遊んでもらうと。一回でも買っていただければ、もちろんその分の売り上げにはつながるでしょうけど、一回買ってもらうという経験が大事だと思うんですよね。経験をしたことによって購入のきっかけがふえていくと。やっぱり何も買ったことなかったら、行こうかとなっても、うんにゃ、おいしたことなかもんねというごたふうになってしまう。でも、一回買ったことがあれば、例えば友達に誘われたときとかでも、ああ、行ったことあるけんが、そいぎ、もう一回行ってみゅうかなという、そういうふうなですね、とにかく武雄競輪の集客アップのためには、例えばお仕事が休みのときでも、きょう何もすつことなかね、何かしたかなというときに、競輪がとにかくその選択肢に上がらんことにはどがんもされんと思うんですよ。これは何の商売でも一緒だと思うんですけど、何かば買おうかなと思うたときに、そこへ行こうかなと考えるお店に上がらんことには、そこから先は絶対なかわけですよね。だから、とにかくそこで選択肢に上がるように、ぜひ頑張っていたきたいなと思っております。

これについては、競輪事業に従事されている職員の皆さんというのもたくさんいらっしゃいます。そして、選手の皆さんも武雄市内にたくさんいらっしゃいます。この武雄競輪事業をどのように今後飛躍させるか、個人的には首長として立たれる皆さんは、ぜひマニフェストに反映させるべきだと思いますけど、これについての考えをお聞かせいただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄競輪は武雄の財産であると認識をしております。ですので、先ほど一人でも多くの市民、県民、国民の方々にお越しいただくということ、そして、なかなかお越しになれないという方々にも武雄競輪のすばらしさをアピールする必要があるというふうに思っています。

その中で、先ほどありましたけれども、やはり今度の共同通信社杯が一つの大きな起爆剤になると思っておりますので、それに合わせて、その前後にいろんなイベントを打っていき

たいというふうに思っております。この場をかりてでありますけれども、ぽんこつスポーツマンのブログ、私も2日か3日に一遍見えていますけれども、先ほどおっしゃったように非常にファンの方が多いんですね。ですので、そういった実際選手、あるいは選手関係者の方で発信されている方々のサポートもしていきたいというふうに思っております。

そしてもう1つが、高校総体のときもそうでしたけれども、去年、私も古川知事と一緒に市内を自転車で駆けめぐったんですね。あのときに、競輪選手の皆さんたちも、私が記憶している限り、お忙しい中にたしか8名もお越しいただいて、さっそうと私たちを引っ張っていかれたということで、市内のロードですよ、道路でそういう開かれたイベントもする必要はあるのではないかなというふうにも思っていて、どっちにしても、いろんな内外を含めて、競輪というのは、私も自転車やっておりましたけれども、こぎ方が全然違うわけですね、プロのアスリートの皆さんと私たちだと。ですので、やっぱりきれいだとか、頑張るとんさあねということも含めてアピールをしていきたいと。私もその一翼を担いたいし、先頭に立ってやってまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどの話を聞いていると、これも選挙の改選期前になるとどうしても、あつちは競輪はやめようと考えとんさあばいとか、こっちはどうかと、毎回そういう情報戦になるので、改めてこの競輪事業についての継続性をどのように考えているか、御答弁いただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに4年前の選挙のときは、ある特定の方が、今度の樋渡さんになあぎ、もう競輪は廃止すっばいということ、あえてお名前は申し上げませんが、本当に言われました。それに対抗するチラシも配布をさせていただきましたけれども、今回おかげさまで、今度、樋渡市長が再選された場合でも、そういう話は今のところ私のところに入っていません。それは、とりもなおさず、4年間のうちに私も競輪場に正月から足を運んでいます。そういったことで、ある意味、競輪に携わっている方々が今安心をされているのではないかということ、そして、きょうは多くの、議会の傍聴の方々も多いですし、ごらんになれる方も多いですので、改めてこの場でしっかり継続をしていきます。していったら、その上で魅力を上げていくように、私もその一人として上げていきたいというふうに思っております。

本当に前回のときは非常に困りました。何でこんなデマが飛ぶだろうというぐらいに困りましたけれども、今回、多分その方も、もうそうおっしゃっていないというふうに思ってお

りますので、そういう意味では今のところ心配しておりませんし、きょう議会を見られている多くの方々にこうやって私は宣言をし、保証したいというふうに思っておりますので、ぜひ競輪の関係者の方々も御安心して、本当にまた頑張っていたきたいというふうに思っております。その決意になったのは、ことしの正月、杉原議長と浦議員で競輪場に行ったときに、本当に議会、そして私たちが一緒に守っていこうと、進んでいこうということを思いましたので、ぜひ御理解をしていただければありがたいと、しっかり支援をしてみたいです。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

安心しました。

それでは、競輪から移りまして、今度は保養村の旧アネックスの再活用ですね。

もうこの件についても、私もこの場で再三質問してまいりました。関係者の皆さんの御尽力によるおかげで、リジョイスさんが進出していただくようになっております。フィットネスクラブをオープンしていただくことになり、大変喜ばしい限りだと思っております。3月1日にはフットサル場をオープンされ、4月にはグランドオープンが控えております。

この議会の席でも、11月オープンとか、2月オープンとか、議会のたびにちょっといろいろな問題があつてとかというような、そして難航しているのもあつて、ようやくここまでこぎ着けた感じがします。やはり旧アネックスのあの建物を再利用ということが前提であったものですから、本当に関係者の人には感謝しているところなんです、記者発表が3月1日に行われ、現在、市のホームページのほうにも掲載が載っております。オープンまで順風満帆とはいかなかったこと、これまでの議会のやりとりを見られた方でもわかっていただけたかと思えます。

そこで、アイススポーツ、リジョイスさんが行われる施設ですね、これまでの質問の中でも出ておりますように、20名程度の雇用が見込まれるというような話が出ておりましたが、現在、雇用面の進みぐあいというのはどのようになっているか、あわせて答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

昨日、議会の終了後に、リジョイスの山中社長さんと、これをあつせんしていただいた五光の社長さんが私のところにお見えいただいて、いろんな説明をいただきました。その中で雇用の御説明もありましたので、この場をかりて紹介をしたいと思います。

まず、ことしの1月からハローワークを通じて職員を募集中であります。当初計画、新規

20名のうち、先ほど議員20名とおっしゃいましたけれども、3月1日現在で正規職員5名を採用し、市内在住者2名がその内訳となっています。そして、4月1日までにはパートさん、アルバイトを臨時採用し20名を確保したいと。これについては現在募集中であります。リジョイスさんから私が受けて心強いなと思ったのは、市内在住者の方を優先して採用したいということでもありますので、これが一定の雇用の確保につながると。

そして、先日、社長さんがおっしゃったのは、いろんな会員さんが集まれば、あそこはまだバックヤードに土地がありますので、ぜひまた展開をしていきたいと。そのときに、利用者の利便性の確保はもちろんだけれども、それに伴って雇用もしていきたいということをおっしゃっていますので、今現在、新聞の折り込みに会員の募集ということを私も拝見しましたけれども、ぜひ市民の皆様方に愛されて活用していただくようなスポーツ施設になればいいなというふうに認識をしております。それが、あわせて雇用の確保にも副次的につながっていくということで理解をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当にうれしいニュースであります。雇用につながるというところで大変ありがたく思っており、リジョイスさんのおかげで武雄の地に新しくフィットネスという健康増進を目的とした施設が誕生したことにより、フットサル場はもちろん、スポーツに関する自主トレなどにも対応でき、保養村の振興にも大きく寄与するものだと私も考えています。

この不況の中で、もう本当にありがたい話である中で、この保養村、私もスポーツ振興をこの4年間あらゆる角度から質問させていただいた中で、施設の面とか、競技力、また、にぎわい創出、競輪事業の活性化などもそうですけど、昨日、先輩議員からも触れられておりました。武雄市でスポーツの拠点となる白岩競技場の施設の老朽化、そして各種正式競技に適していないというような点、各種大会にも適していないという点をもうずっと申し上げてまいりました。そこで、私も提案したことがあるのが拠点を新たに移すべきだと、そうして市外からの集客につなげ外貨を獲得することが必要だということのをずっと、きのうの質問と全く趣旨は同じだと思うわけです。

私の質問の中でも、仮に移転先をどうするかという話がきのうは出ておったんですけど、私、これまでの質問の中で、それをぜひ保養村で考えるのが一番いいんじゃないかと、私はもう常々この場で申し上げてきておりました。仮に保養村に移すとなる、ほかの兼ね合いがいろいろ出てくるかと思うんですけど、私は、さっき8番議員の質問の中でもあった4階まで上がるのがつらいというような話もあって、庁舎も大分老朽化も目立って建てかえんといかんとなると、新幹線の影響があるかもわからん、新幹線が真横を走っていくわけですから、

この建物が果たして大丈夫なのかなとか、そういうのも考えた場合に、庁舎を白岩に移して、白岩の施設を保養村に持っていくのが一番よくなかとか、そういうことも考えております。ここがあいたらどうするか、学校誘致とかですね、学校は誘致するならやっぱり駅からすぐ近くのほうがいいというようなところで、それ以外でも、それが無いとしても、今の白岩の施設のところに、市長の42の具約の6項目、最重要課題として上がってございました企業・学校誘致、起業する方のサポートとして関西大学や多くの企業誘致の経験、そして幅広いネットワークを生かして、全国から企業・学校等の誘致を図るということでもあります。

私はこの4年間、一番期待していた——期待というか、なればいいなと思っていたのが、やっぱり学校誘致でありまして、市民の皆さんからもそういう声をよくいただいております。学校にも種類がいろいろあって、大学なり、高校なり、専門学校なり、種類はたくさんあるんですけど、そういう学校を誘致されたときに、この白岩の施設のところに誘致すればいいんじゃないかなと、そういうのを期待してこの4年間おったわけです。

学校誘致、それが実現しているかといえば、そうでないわけですけども、これまでの市の取り組み方、関西大学との友好的な関係の築き方とか、そういうのが将来的に結びついて学校誘致につながるのかなとか、私の素人考えの中でいろいろ考えるんですけど、この4年間の学校誘致、企業誘致の取り組み、プラスその考え方というか、それについてどのように考えているか。これまでの実績、言える範囲があると思います、相手があることですから。それについて御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

学校誘致は、先日、企業誘致関係に並行して、関西大学の高槻ミュージーズキャンパスの開校式に私も招かれて行きました。

そのときに、本当に工場の跡地だったんですね。ユアサの電池工場の跡地に、もう巨大なビルがどんと出てきた。これは、とりもなおさず、私が最初に動きましたけれども、やっぱり地元の熱意だったんですね。ですが、反対の地元の熱意もありました。もうそんなの、今じゃ絶対考えられませんが、これはブログにも書きましたけれども、相当反対の地域運動もありました。ですので、ある意味、それは病院問題と一緒にだということも思って、実は、これはさきの議会でも申し上げましたけれども、やはり樋渡市政のこの4年間の最大のことは市民病院の民間移譲でありました。私はこれは企業誘致ととらえ、1つ看護学校の、これも誘致だと思えます。できたといったことについて、重点がそちらのほうに行きましたので、次のことを言うのは甚だ僭越でありますけれども、もし民意を得ることができるならば、この学校誘致ということの本格的にやっていきたいというふうに思っておりますし、現に今、非公式に幾つかの大学、高校に話をしております。その中で必ずおっしゃられるのは、

もう今、駅から近いところじゃないとだめだということなんですね。これは関西大学のミューズキャンパスも、熱意はありましたけれども、駅から歩いてたかだか四、五分なんですよ、ユアサの工場の跡地も駅から歩いて。その駅から歩いて四、五分の範囲内に、どの学校、学校法人も適地があるかとおっしゃいます。

ということでもありますので、そういった意味からすると、新幹線を見据えて、駅の近くがやはり適地としてふさわしいということは学校法人の方々が必ずおっしゃるんですね。それとあと、病院が近くにあるかということも言われますので、そういう意味でいうと、武雄の今後の利便性であるとか、優位性を踏まえて誘致をする必要があるだろうというふうには思っています。

もとより、先ほど議員から御指摘がありました、先日も牟田議員からもありましたように、白岩の部分でありますとか、ここにいろんな適地があるということも踏まえてお話をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

学校誘致、企業誘致ともに大変難しいことだと思います。ただ、できればやっぱり友好的な環境を築き上げられている、例えば関西大学でいえば関西大学九州校というか、関西大学武雄校とかですね、先日も青少年の少年野球教室等でいろいろ関係を持たせていただきました法政大学とかも、例えば法政大学の武雄校とか、そういうふうな感じででも、分校みたいな感じでもいいから、武雄で育て、武雄で学んで、武雄で就職していくというような流れができれば本当にいいなと私も考えておりますので、ぜひこれは今後の検討課題としても残していきたいなと思っています。

続いて、教育についてに入らせていただきます。

最近、学校で生徒が起こすトラブルをよく耳にするわけであります。特に中学生、これについては、ただ言い方はおかしいですけど、賛否両論あるのかなということも考えております。もちろん、他人にけがをさせてはいけませんが、中学生ともなると、やっぱり先生や親に反発したりすることは少なからず私はあるとやなかかなと思うとですよ。それがある意味、中学生らしい当然の成長を見せてくれているという見方もできるんじゃないかなというところも、そういう考えを持たれている方ももちろんいらっしゃいます。これは、私もどちらかといえば、そういう考えのほうが多くて、子どもたちの主観性によるものなのかなと。ただ、学校や保護者、また地域にとっては、こういったトラブルはやはり未然に防ぐことが必要になってくるわけです。これも、さきの議会でも言い続けてまいりました。

そういう中、先生方、会議や研修、放課後の学習指導や生徒指導などで多忙きわまりない

わけで、臨場指導ができていないのではないかなど。部活動指導の充実、けがの防止、これまでも取り上げてきた部活動への外部指導者の導入を積極的に推奨してまいりました。これについて、その後どうなっているか。よく伺う話が、部活動などで顧問の先生が練習とか試合に来るとときは何もなかけど、来とんさらんときはがんやもんね、あがんやもんね、こがんやもんねという話をよく耳にするわけでございます。これについての対応はどのように考えているか、御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

中学校のさまざまな問題につきまして、議員みずから率先して生徒ともかかわっていただくこともありまして、感謝を申し上げたいと思います。

お尋ねの部活動等への指導につきましては、これまでも指導者がいないときの事故の発生とか、トラブル等で問題になったことも現実にあるわけでございます。実際には、確かに多忙な職員の状況がございます。そのために2つの部を、体育館でしている部は、もうとにかくいないときは1人で見ましようとか、あるいは運動場を1人で見ときましようとか、先生が来るまでですね。そういうようないろんな対応をしているわけでございますが、それでは不十分なわけでございます。

ですので、お尋ねにありましたように、地域スポーツ人材の活用実践支援事業というのがございまして、昨年度は武雄中、武雄北中で2名の方に入らせていただいております。来年度の申請をしているわけでございますけれども、さらに希望が出ておりまして、武雄中、山内中、武雄北中、種目も柔道とか相撲、卓球、ソフトテニス、バスケットなどですね。この事業を活用して、地域スポーツ人材という形で御支援をいただくというように広がっているところでございます。

また、この事業とは別に、地域の方がさまざまに入って御指導、御支援いただいているというのは先般の御質問のときにお答えしたとおりでございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

外部指導員が市内で17名、この数字を多いと見るか、少ないと見るか、さきの議会でも私は少ないと思いました。ただ、それ以外でも、地域の皆さんの御協力をいただきながらやっているということは、それはそれで大変ありがたいところであります。

江北中学校でも7名、武雄市内は5校で17名。やはり学校からとにかく働きかけをせんことには実現はできないというアドバイスをいただいたことも、前回発言させていただきました。これは、何で前回も言うて今回も言いようとかと思われる方もいらっしゃると思います。

それについては、やはり今もう3月なんですね。来月には新1年生が入ってくるわけですよ。新1年生が入ってくる中で、生徒はもちろん、保護者も少なからず不安があるという声をよく耳にするわけです。ですから、至急の御対応、学校からの積極的な働きかけをお願いしたいと思います。

続いて、毎度毎度申し上げます高校教育についてであります。

武雄青陵中学校が開校して、早いものでもう3年目。いよいよ中学受験を経験した子どもたち、現在の中学3年生が卒業を迎えております。ここで問題なのが、この子たちの進路であります。青陵高校がない今の中学3年生が進む進路の選択肢としては、武雄高校へ特例でふえたとはいえ160名、それに対する市立中学校の今年度の卒業生が527名、この圧倒的な数字が物語っていると思います。全員が武雄市の子どもたちだったと仮定しても、367名は市外通学を余儀なくされます。

今、保護者の皆さんがどのように感じておるか。ここ最近、非常に多くお声をかけていただくことが多くなったことがあって、「やっとあんたが「ごっとい高校が足らん」と言いよるとのようようわかってきた」と。何でかという、孫でと。「うちの孫の行く高校のなかもんね、ほんなごて。どーろ武雄高校には行きえんごたてなあぎ、絶対市外に行かんばらん」という、そういうお話をよくいただくようになりました。ようやく子どもさんやお孫さんを育てる上で、武雄の不利感といいますか、実感されてきているようであります。これも、これまでの議会でも質問させていただき、幸いにも新聞紙上等でも取り上げていただきました。

ちょっと今回パネルを用意しました。（パネルを示す）ちょっと初めてなので緊張しています。この表が、前回口頭だけで申し上げておりましたので、なかなかわかりづらかった部分だと思うんですが、県内10市の人口が占める割合。武雄市が1つ、その他ほかの市、9市がこのような状況になっております。人口はあくまでも平成20年6月1日現在のデータであります。でいくと、ほかの自治体との差というのはやっぱり大きいのかなと考えます。5万1,000人に1校ですね。これを見てどう思うか。これは、私立高校の0.5というのは女子校がありますので、武雄校舎と佐賀の女子校ですね。こういうデータになるかと思えます。これについてどのように考え、どのように行動されているのか、御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

21年の3月、6月と、この件に関しては貴重な御意見、そしてお考えを承ってまいりました。

この質問の通告をいただきます直前に、今年度の県立高校の募集定員の応募状況が発表になりました、ちょうど再編準備室と話をしたところでもございました。きょうは、先ほど話

ありましたように、きのう、きょうと県立高校の試験があっているわけでございます。以前から、武雄市の場合は約500名の卒業生の3分の1が市内の高校、そして3分の2が市外の高校という状況があっているわけでございます。武雄高校に関しては、ことしに限って非常に卒業生が多いということと、外からの流入者という兼ね合いから1学級増の8クラスという状況になるわけでございますが、来年度はまた7学級に戻るということでございます。ここ数年の動きを見ましても、3分の2が市外にという形は変わっていないということでございます。

先ほどのお話にありましたように、これまでも申しましたように、市を単位として考えていないというのが県の方針でありまして、その経過からこういう状況になっているのは、やはり武雄市民としては納得がいかないということで、私も幾たびか準備室でも話をしてきたところでございます。

そういう中で、今、身近な杵島商業高校、佐賀農業高校に約30名から40名の子どもさんが行っておられるわけです。その再編が片方で話題になっておったわけですが、24年度あたりから27年度の状況を見て再編の話に進むんじゃないかというような話も承っております、注意深く推移を見つつ、武雄市の子どもたちのいわゆる進学先について、真剣に見守って対応していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほど答弁いただきました。今ある質問をさせていただいておりますけれども、教育委員会の職員の皆さんから私もお話を聞いていて、浦郷教育長においてはもう本当に県のほうに何度も何度も足しげく訪問されて、武雄市の現状、武雄市の市民の皆さんの思いということを毎回伝えられていると。私も同席して、一生懸命言いよんさあとを聞いておりますということをお伺いしておりますので、そこら辺については大変感謝したいところであります。ただ、どうしても西部学区で見るとというのが私も納得のいかない部分であります。

このデータはそういう感じでありますけれども、もう1個ちょっと用意しているんですけど、学区の問題ですね。（パネルを示す）ちょっとこれは余り大きくなくて見づらいところはあるんですけど――すみません。西部学区で見た場合に、どうしても武雄は西部学区の中心にならんといかんと私も常々申し上げておりますし、皆さんの意見も相乗してそうだと思うわけです。ただ、子どもたちの教育の環境においては、伊万里が中心やろうかな、鹿島が中心やろうかな、杵島郡のほうかな、場所的には武雄が一番中心にあるわけですけど、子どもたちが通ってくる、外からも武雄にいっぱい集まってくるような環境にはなっていないなと。

民主党政権による公立高校の授業料等の話が出ております。この先どうなるか、まだまだ

不透明なところはあるわけですが、この公立高校の授業料、概算で見ておおよそ月1万円程度。それに保護者会費や、その他もろもろ別にあと1万円程度かかると。公立高校に行くと、納める額は大体月に2万円程度が必要になってくるというわけです。武雄市内の高校に進むことができれば、自転車で行くかどうかですね。そういったところであれば、もうそれだけになってくるのかなと思うんですけど、周辺部にお住まいの方というのは、やっぱり武雄まで出てこんといかんわけですよ。そこまでの通学費用、もしくは通学の時間、これも加算されていきます。申し上げておきますけど、武雄青陵高校があったときでも、私はそれは充足しているわけではなかったと考えているところであります。

先ほど、志願状況等であるかと思えますけど、志願状況は中学校の先生なり、保護者なり、いろんな方と話しして、自分が行けそうだなというところをねらっていくわけですから、それが定員割れしようが何しようが関係なかわけですよ、私から言わせれば。ですから、そういうのもあるのはあるんですけど、どうしても武雄高校に行かなければ市外の高校に行く必要があって、佐賀市まで通学となると、この地図上からいっても電車の使い方ですね、一番手っ取り早いのは佐賀のほうが通学的には便利なのかなというふうに考えると、佐賀市までも電車代、定期代が毎月おおよそ8,000円程度かかります。肥前山口や有田でも、大体月に五、六千円ぐらにかかりますというふうな話です。時間的な面は絶対考慮する必要がありますけど、武雄駅までの通学時間、費用を考えると、周辺部の皆さんにとってもなおさら負担にもなります。

ある方が言っておられました。佐賀市内の私立高校の関係者は、武雄に足向けて寝られんばいと言ひよんさって。そういう話も私は伺いました。これについてどう考えるかですけど、教育基本法第3条、教育の機会均等の原則からも逸脱しているんじゃないかという声すらありますけど、これについて市長どのようにお考えになるか、答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、現状認識なんですけれども、私も私学の経営者の方々といろんな懇談をする場があって、それでもやっぱり悲鳴を上げているんですね。確かに、武雄に足向けて寝られないということは言われます。言われますが、もともと経営があっぷあっぷで寝られないということも言われますので、非常に学校経営そのものが危機に瀕しているぐらい厳しい。これは佐賀だけじゃありません。全国そうであります。そして、これは県の、今回の青陵の問題については、我々が市長あるいは市議として議席を得る前の決まっていた話ですので、そのときに伺ったのは、今後、武雄を含めて佐賀県内どんどんどん子ども数の数が減っていくので、非常に県としても対応を苦慮しているという説明を私もいただいたところであります。

そこで、ちょっと考えたいのは、確かに今、関西大学とか法政大学を含めていろんな大学

にはパイプがあります。まず、第1弾として、きちんこの場所でどうでしょうかという誘致をしようと思っています、誘致をもう公式に。できレースとか言われぬように、ちゃんとしようと思っています。その上で、多分来ないと思います。武雄のポテンシャルぐらいたと来ない。

そこで、1つ考えられるのは、ハイブリッド、公設民営。例えば、武雄市がこの部分だけは負担をするから、例えば建物、土地については負担をするから、教員のオペレートであるとか、あるいはそういう人材、ソフトの部分は大学がしますということで、ハイブリッドで行って、それを条件として公募をするというのはあるのかなというふうに思っています。それが特定になるのか、全国公募にするのか、ちょっとそれは我々も考えたいと思いますけれども、やはりそれぐらいたないと多分もう無理かなというふうに思っていますので、ぜひその方策を考えたい。

これはIターン、Uターン、非常に高い評価をいただいているところでありますけれども、うちの山田君、あれは早稲田を佐賀県に引っ張ってきた張本人なんですね。そういう人材がいるわけですね。全国で、関大を引っ張ってきたのは樋渡だというふうに業界で言われています。早稲田は山田だというふうに言われているわけですね。ですので、そういうノウハウを生かして、うちの職員力も生かして、どういう誘致ができたかということ。特に関西大学は私が中心的にやっておりましたので、一例を申し上げますと、これは市長まできちんと上げた上で、土地の相当分は高槻市が見ますと、土地の相当分。これ40億円から60億円です。その上で、箱物とか人材は来ました。それに関西大学が投じたお金は300億円です。経済効果は今1,000億円以上と言われております。ですので、武雄市がそういう意味での誘致の呼び水をするということはあるのかなと思います。ただし、これは財政負担を場合によっては伴う話ですので、議会にきちんと議論をしていただいた上で、その方針を定めていただいた上でこの話をしよう。これは新武雄病院とは意味が違います。新武雄病院は向こうが3億9,000万円という巨額な、払っていただいた上で行っているわけですから。今度は、もし来手がないということであれば、議会にきちんと意思を諮って、そういう条件を整えて、市民挙げて来てくださいますということをぜひしたいというふうに私自身は思っていますので、まず詳細な公募の制度設計については、よく議会と、次新しくなった議会とですね、私がここにいるかどうかちょっとわかりませんが、もしなれば、議会と相談した上で、市民にお諮りをした上で市民的な誘致運動をぜひ行いたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当に前向きな話を聞いてよかったです。大学関連の学校誘致ももちろん必要です。

これともう1点、教育長にお願いですけど、杵島商業、佐賀農業の合併、再編の話が出た

ときには、可能かどうかわかりせんけど、合併に便乗して武雄に引っ張るぐらいの覚悟を持っていていただきたいなと思っています。総合学科として武雄に公立高校をまた引っ張ってくるという、その考えは、だめもとでも私は持ち続けるべきだと。武雄市の子どもたちのためにですね。お互いの高校も、私の感覚からいえば、決して恵まれた通学環境にはないと思うんですよ。どうしても今の杵島商業の場所、佐賀農業の場所、この場所よりも武雄のほうが通学環境は子どもたちにとっても優しいと思うわけです。この公立高校のほうも引っ張ること、決意のほど、どちらかよかったらよろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは本当にいい案ですね。公立学校を引っ張るという考えは私にはありませんでしたので、これは知事と私の懇談の場であるとか、市長会の懇談の場であるとか、もう私から直接言います。武雄のほうがよかばいと、もう新幹線も通るし、これだけ通学にも恵まれたところはないですよと、武雄の人たちみんないい人ということで伝えていきたいというふうに思っております。非常にいい案をいただいたと思います。

先ほどの答弁の補正なんですけれども、先ほど私、大学の名前を言いましたけれども、実は関西大学の場合でいうと、小学校から大学院まで一括して誘致しているんですね。早稲田の場合は中高一貫なんですね。ですので、ここに大学という話じゃなくて、一番市民の皆様、県民の皆様たちが望んでおられる、例えば高校、中高一貫になるかもしれませんが、そういう意味で申し上げましたので、ちょっと私の説明が言葉足らずだったということは、この場で修正をさせていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11時57分
再	開	13時18分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き一般質問を続けます。

1 番上田議員、質問を続けてください。1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

途中で切れましたので、ちょっとどこからいこうかなというところなんですけれども、教育についての話には市民の皆さんからたくさんの声をいただいた中で、この問題というのは、大変皆さん深刻な状況でありますので、今後も私のテーマとして残して、また、私がこの場所に戻ってこれれば、継続してまた訴えていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

次に入ります。

最後の中項目、まちづくりについてであります。

このまちづくりについてとしておりますけど、適当な項目名が思いつかずに、こういうふうに通告をさせていただいておりますが、事業の継続性と言ったほうが正直わかりやすいのかもわかりません。

では、質問させていただきます。これまで質問させていただいた項目の中でも、御船ヶ丘小学校の放課後児童クラブの件については、ぜひ卒業式までに間に合わせてほしいと訴えておりましたが、どうやら本日が工事の終了予定というふうに伺っております。武雄東児童遊園、通称S L公園の駐車場整備において、また、白岩運動公園整備など、これについてもきめ細かな交付金事業で予算計上をさせていただいておりますので、大変感謝しているところでございます。

事業の継続性といいましても、これにかかわる最大の要因というのは、やはり需要と供給のバランスではないかなと思っております。その上で、さきの議会でも若干質問させていただきました下水道事業。下水道事業が実施されている地区の皆さんも、話を伺うところによりますと、下水道には接続をしたい、ぜひやっていかないといけないというふうに考えていただいているようです。しかし、接続するとなると利用量によつての負担が発生するわけで、商売をされている皆さん、特に排水等ですね、水を使われるような業種の皆さんにおいては大きな負担というふうなことで考えられております。

下水道に接続するためには、借金して接続しないと予算が確保できないという方もいらっしゃるようで、そういう方が実際はほかにももっといらっしゃるんじゃないかなと、借金をして接続する、その後さらには利用料までこれまでより上がるというようなことになると、協力したくてもできないと、そういう声をさきの議会でも述べさせていただきました。何か策を考えてほしいということでありました。太陽光のソーラー発電、これも同様で、こっちは申し込みが殺到したほどで、一般的に考えるとランニングコストが安くなるから初期投資をしようという考えに、やっぱり当然なると思うんですよね。下水道においても、そういうふうに考えてもらわないことにはやはり手が出ないというのもうなずけるところはあります、もちろん。そのときの、さきの議会の答弁で、対象地域の皆さんと話をしてみろという御答弁をいただいておりますけれども、これについてどのような状況なのか御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

さきの12月議会で、地元に入って聞き取りをするという答弁を市長がしております。これにつきましては、今供用開始しているところが川端地区と、それから本町通り、あと蓬莱町

のほうまで行きますけど、この通りで、旅館関係は浴場を持っておられて水をたくさん使われるというところの、旅館関係について今お尋ねをしていると。それで、ポンプの運転時間とかいうものを調査しながら汚水量の実態調査を今調べているというところなんです。それで、今、旅館関係の済んだところが2件あって、まだ調査中という状況でございます。

聞き取りについては以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

旅館関係のほうは今調査をいただいておりますということですね。この下水道事業の水の利用量ですかね、分類をすると、旅館業は確かにもう、けた違いにやっぱり多い部類に入ると思うとですよね。一般家庭、標準世帯といいますか、それは中くらいと、標準とした場合にですね。もちろん、少ない家庭もその中にはあると思うんですけど、多い事業所と標準の、この中間ですね。多いところよりも少ないけど標準のところよりも多くなる、ここら辺もぜひ調査をしていただいて、とにかく供用開始地区、今後なる地区、あわせて今の市民の皆さんがどのような悩みを持っておられて、どこに困っておられるのかというのをぜひ拾い上げていただきたいということを要望しておきます。

続いて、時間もありませんので、ちょっと端折っていきます。

オリンピックに続いて、さきのバンクーバーオリンピックに続き、これも4年に1度の祭典、頭に浮かぶのがサッカーワールドカップのパブリックビューイングでございます。4年前のあの歓声、思い起こせば、いまだにあの時の興奮がよみがえってくるわけであります。

残念ながら、ゴールによる歓声は味わえませんでした。県内に限らず県外からたくさんの方が武雄競輪場にお越しいただき、大変盛り上がったことだったと私も記憶をしております。

さて、このワールドカップですが、来年度、早速もう6月に南アフリカワールドカップが迫っております。これについて、このパブリックビューイングという事業を継続する可能性、意識があるのかどうなのか、そこを御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

4年前の樋渡市政最初の事業としてFIFAワールドカップのパブリックビューイングだったと思います。ことしですけれども、南アフリカワールドカップは、6月14日月曜日、対カメルーンで日本時間が23時、6月19日土曜日、対オランダ戦、日本時間が20時30分、6月24日木曜日、対デンマーク戦で——すべてこれは開始時刻ですけれども、日本時間午前3時30分となっていて、ぎりぎり23時まではいいんですけど、デンマーク戦が3時30分、決勝ま

で行けば、またさらに違う展開になろうかと思うんですけれども、できる時間帯ではありませんので、パブリックビューイングはぜひ議会の御賛同が得られれば、開催をしたいと思えます。場所等については、いろいろ今、私のところにも非公式に話が来ておりますので、またアドバイスを賜ればありがたいというふうに思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

3 戦、カメルーン、オランダ、デンマークと予定をされております。私個人的な感覚からいくと、決勝トーナメント進出はちょっとかなり厳しい組に入っているなというふうな思いがありますので、実施するとすれば、この3 戦のうちのいずれかでというふうなことを考えていくのが一番筋だかなあと考えております。

この開催場所ですけれども、前は競輪場でやまして、これは冒頭にも申し上げたように、競輪場にまず来てもらう、競輪場の敷居を低くするというねらいも、それに伴う効果もあったはずであります。ただ、今回開催場所がどのように考えられているのか、もちろん予算面も考えなくてはなりませんけれども、まちのにぎわいにつなげるという意味で行けば、今回市役所前の中央公園なんかを考えてみるのも1 つの方法かなと。それで結構盛り上がった後に、そのまま川端通り、また武雄のまちの中に流れていただくというような、そういう流れができないものか、それについて御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、いい案だと思いますね。武雄市役所前の中央公園については、川端の飲食業組合の方からも非公式に実は私のところに話が来ております。そういった中で、ぜひ私としては、これも議会と取り計らいを、また、御指示をいただきたいと思っておりますけれども、諸条件が許せば、ぜひ中央公園で行いたいと思っております。それをやることによって、実際屋台でもまた出してもらって、飲食をしながらパブリックビューイングということになると、その実際の時間8 時半から始まる。例えば、6 月19 日土曜日なんですね、しかも。土曜日で対オランダ、これは優勝候補ですね。20 時半からということになると、もうこれがベストタイミングだと思いますので、私としては、ぜひこの時間帯に合わせて中央公園で開ければいいなというふう思っておりますし、それともう1 つが、せっかく1 回設置するのであれば、結構この前もそうだったんですけれども、ハイライトのシーンとか、あるいは物すごくいい、アルゼンチンとかブラジルが出てきたときの録画も含めて、たった1 日だけやるのはもったいないですので、この期間中は、例えば何時から何時までというふうにして、このパブリッ

クビューイングだけでなく、著作権とか放映料の関係がありますけれども、少し期間を長目にしてやりたいなというふうに思っております。武雄市といえば、ワールドカップ。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

本当に、私もキーになる試合は2戦目のオランダだと思います。負け負けで3戦目となると、もうトーナメント進出の可能性もなくなりますし、1戦目の勝敗次第で、2戦目の勝敗が大きいかぎを握ってくるところでもありますので、まあメインに持ってくるのは、もうここかなという感じもしておりますので、ぜひ武雄市発展のためにも、利用させていただけるものはすべて利用していくというぐらいの気構えでいないとだめなんじゃないかなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

続きまして、子どもたちにちなんでの事業で、これは私、非常にいいなと感じていたのが子ども議会、また、子どもたちを対象とした市長と語る会ですね。子ども議会は市内の小・中学生が一堂に代表としてこの議場に集まり、そしてさらには、武雄ユナイテッドチルドレンの高校生たちの参加の協力をいただいて、有意義なものになったと思っております。

子ども議会は、行われたすぐですので、来年度のほうはどういうふうになるかは、まだ今からだとは思いますが、子どもと市長の語る会について、私の記憶ではいじめに悩む子どもたちの声が聞けて、子どもたちの気持ちが救われたようなことを、この場でも、またブログでも公表されていたと記憶しております。ですが、その後に開催されたようなことをちょっと聞き及んでいませんので、これまでの実施状況はどうなっているのか、これもやはり需要と供給のバランスが大事になってくるかと思っておりますので、これについて御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

先ほど議員が申されたように、メインテーマといいますか、決めて全校的にということはございませんで、必要に応じてその都度やらせていただいておりますし、まあメイン的に決めて全校やったほうがいいのか、あるいは地区地区、中学校校区あたりでやったほうがいいのか、そこら辺はいろいろ検討しながら、そのときの時勢時勢でまたやらせていただきたいと思いますし、当然子どもたちも市長、そして教育長と懇談をするということによって、いろんなことも、また励みになるようなこともあるでしょうし、楽しみにしているということもあるというふうに思っておりますので、ぜひ実施をしていきたいというふうにも考えており

ます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ、子どもたちとのかかわりというのは非常に重要になってくると思いますので、継続をお願いしたいと思います。

次に、イノシシについてであります。

いのしし課でありますけれども、市民の皆さんの中でよくお話が出てくるこのイノシシですね、このいのしし課の最大の目的というのは何なんでしょうか。イノシシの駆除が目的なのか、それともイノシシ肉を特産品にするのが目的なのか、まず率直に御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いのしし課のまず第1の目的は、武雄市からイノシシの被害を減らすこと、第2の副次的な目標として、せつかくですので、マイナス財産をプラスの財産にしたいということで特産品化にするということで、優先順位はあくまでも被害防止策であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

もうまさしくそうですね。私もそういうふうに認識しておりましたが、市民の皆さんと話していると、結構イノシシ肉の特産品化が、そっちのほうが目的が多いみたいな感じで受け取られとったもんやけん、ちょっとそこを確認させていただきました。

これも、私も周辺部の皆さんと特に話をいろいろさせていただいて感じたのは、全く今の段階で、どっちつかずじゃなかですけど、中途半端やなかかなというような声がやっぱり上がってるわけですね。私も個人的にもそう思うところがあります。というのが、いろいろお話しをしていく上で、「確かにイノシシ減った」と言うてもらえる方も結構いらっしゃいます。その効果というのは、やはり上がっているなど。それを聞いたときは、私物すごうれしかったし、ああよかったなと思ったとですけど、でも中には、別の地区に行けば、「全く減とらん」「何も変わらん」と言いんさつ人もやっぱりおんさつわけですよ。そういう声を聞く上では、やっぱりもっと、武雄の人口とあんまり変わらんぐらいのイノシシがおると言われとるわけやっけんが、やっぱり駆除をもっと徹底的にやっつかんばいかんとやないかと。

今度逆に特産品のほうから見ると、旅先に行って、特産品なり、やっぱり地元の特産品を口にしたいというのが旅行者、またよそから見えられた方が思われるものかなと思うんですけど、そのイノシシ肉を利用した調理というのは、もっともっと進んでほしいけど、話を聞くとやっぱりこのイノシシ肉は高過ぎるという声が多々あるわけです。これを調べていくと、最も高いロース肉で100グラム525円というふうに値段がなっております。やまんくじらのパンフレットですね。飲食店の皆さんと話をして、100グラム525円、これ税込みですね。

「525円するなら、豚とか牛でももっとあるもんね。わざわざ無理してイノシシを使う必要はない」と。「でも、せっかく市が力ば入れてしよるとのことやっけん、おいたちも協力はしたかばってんがコストが全然合わん」という声しかちょっと聞かない状況です。こういう声は行政のほうに届いているかどうか御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

届いております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ですね。であれば、最大の目的は駆除であれば、もっと補助金投入してでも、徹底的に駆除をまずやろうよと。お金をかけてでも、駆除に、お困りの方は本当にいらっしゃいますもんね。これはもう、ちょっと高齢者というか、年配の方でしたけれども、「全く減らんけん、どがんかしてくいろ。うちの農作物はしっきゃやられてしまう」と言うて、本当に涙流されて話したですもんね。それ聞いたときは、ほんなごてもう心痛んだというか何というか、もう言いようがありませんでした。だから、あくまでも駆除を、もうとにかく徹底的に税金を使ってでも、予算を使ってでも駆除をやる。で、駆除をした、そこに投入した分は肉に反映させんでよかわけですよね。そのままイノシシ肉で利益を出そうとするから、どうしても高い値段になっていくんじゃないかなと。

私の個人的な考えからいけば、駆除をしました、処分するのがもったいないから、それを特産品化に持っていきこうと。肉自体で利益を出さなくても、その肉を利用された業者の人、飲食店の人がそこで利益を出されれば、武雄の特産品化として十分役をなすんじゃないかなと、私は個人的にそういうふうに思っています。ですから、肉には、売価に乗せるのは、さばいた方の人件費であったり設備の分であったりと、そういう考えができて、販売業者が利益を出してもらおうと、そういう特産品化の考え方を持っていたきたいなと思いますが、これについてどう思いますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

半分はそうだなと思うんですけども、あくまでもお肉の売買というのは、公が介入するというのはよくないと思います。あくまでも市場価格があって、そこで今のところ、やはり高額で取引されてやっぱり買う人がおるわけですね。そこで高どまりになっている。そこでぜひお願いがあるのは、実はこれは経済学の原則ですけども、いっぱい需要が出てきて食べる人たちがふえれば下がるわけですね、こっちが供給するということを前提に置けば。ですので、やっぱり「みんなで食べましょう運動」を起こすと、それがおのずと売価の低減につながります。

今、確かに高いというふうに言われますけれども、例えば今さっき100グラムで500幾らと出ましたけど、同じ値段だと、例えば丹波篠山だとその2倍から3倍するんですね。ですので、今考えたいのはそういう外に売るもの、武雄のイノシシということで東京の伊勢丹とかでも問い合わせがあります。そういったところは高く売る。それと需要がふえてきて、地元の皆さんたちには安く売るということで価格の2層化を進めていきたいというふうに思っております。いずれにしても、いっぱいとれて、それを出すということになろうかと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

すみません、時間が来ました。4月1日の日に社団法人武雄青年会議所がmanifestoの公開説明会を実施します。午後6時から文化会館小ホール。今回の改選期を迎えて、ぜひmanifestoで戦っていただきたいなという希望を持ちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。